

医療・介護現場の人手不足の 実態と諸外国との比較

2021/7/6

全日本民主医療機関連合会

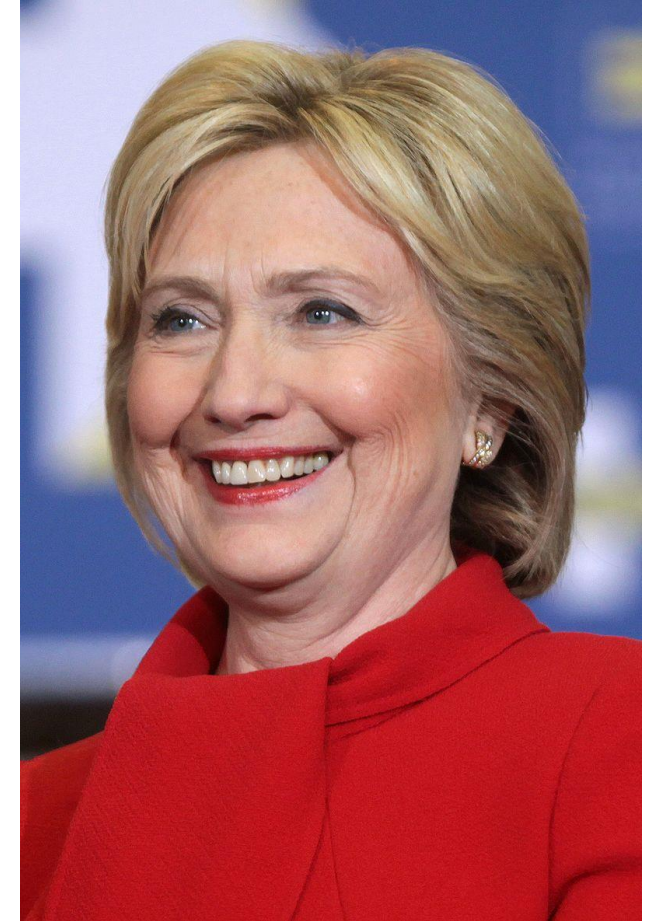
フローレンス・ナイチンゲール (1820-1910)

- ナイチンゲールが残した名言で以下のような言葉がある。
- 「犠牲なき献身こそ真の奉仕である」
→何かを犠牲にして看護に殉じてはならない。自分たちの生活にゆとりがなければ（満たされなければ）、決してよいサービスを提供することはできない。長く続けることもできない。



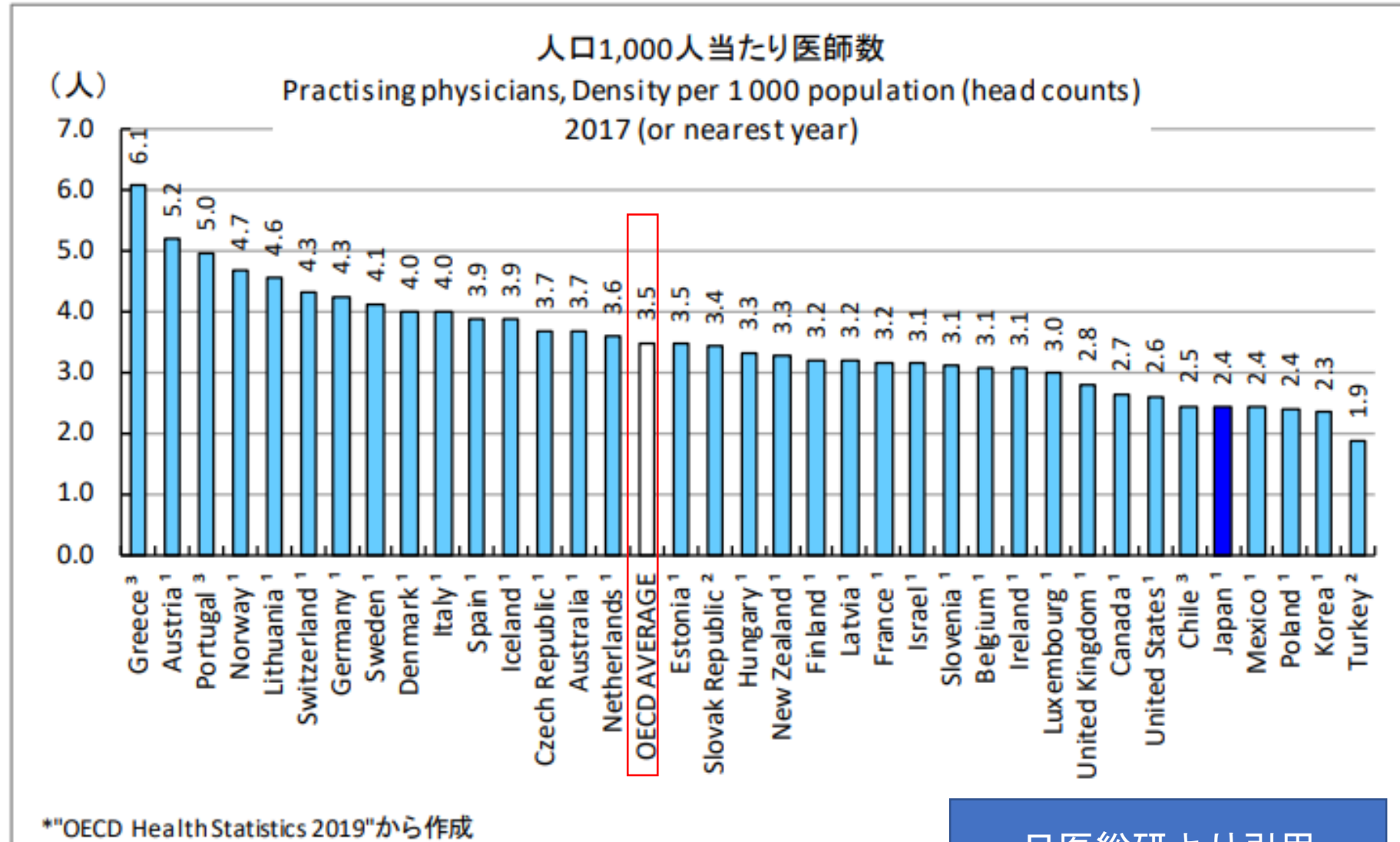
聖職者さながらの自己犠牲

- かつてヒラリー・クリントンが皆保険制度を導入しようとし、日本に視察団を送った。
- 低い乳幼児死亡率や健康寿命世界一の日本は、どのように国民皆保険制度を維持しているか、強い関心をもたれていた。
- しかし、1週間もすると「これ以上みても意味がない」と帰国してしまった。
- 帰国した視察団は、日本の医療システムを「医療従事者の働きぶりを聖職者さながらの自己犠牲で成り立っている。このシステムをアメリカに導入するのは不可能」と評価した。



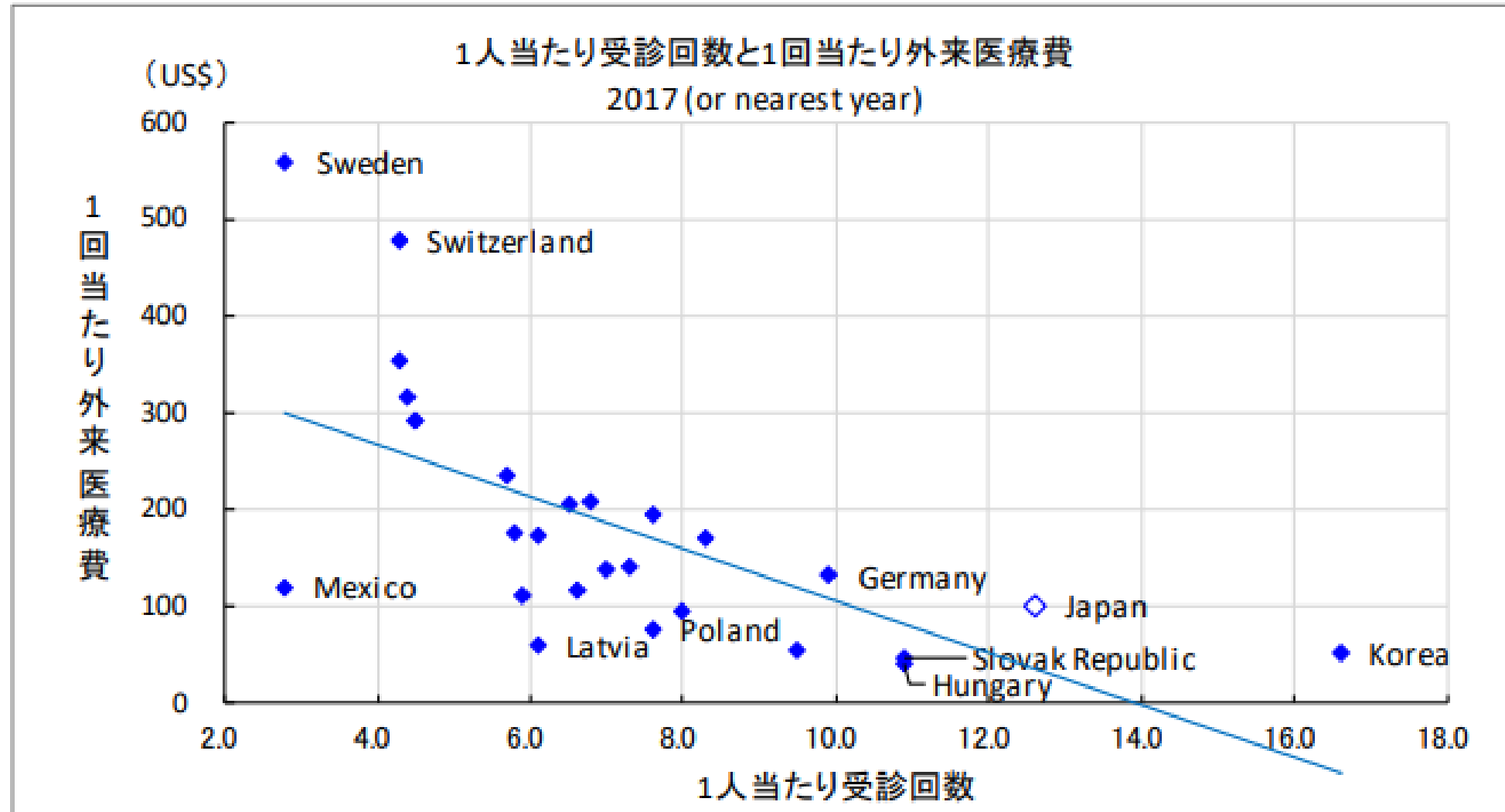
日本の医師数はOECD加盟国37カ国中33位

- OECD加盟国の人口1千人当たりの医師数平均は、約3.5人
- 日本は2.4人弱で、OECD加盟国37カ国中33位。



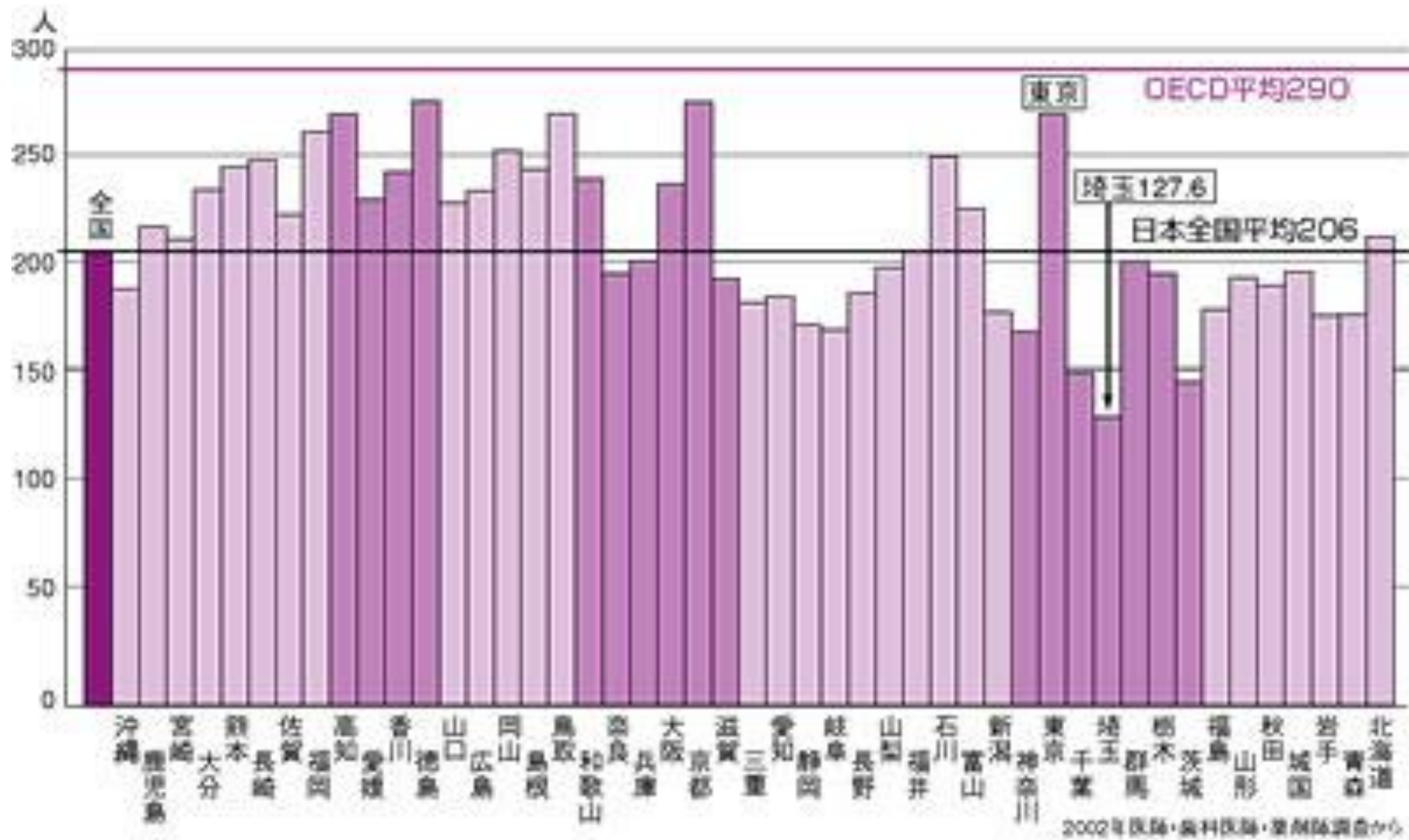
1人当たりの受診回数と1回当たりの外来医療費

- 日本の受診回数は、12.6回で2番目に多い
- 一方、一回当たりの医療費は、低い。
- 少額で軽微な受診により、高額で深刻な受診を抑制しているともいえるが、そもそも診療報酬そのものが安価。



日本の医師不足、原因は偏在ではない

- OECD平均の人口10万人当たりの医師数は、約290人。
- OECD平均に足りている都道府県は一つもない。
- 医師偏在論は成り立たない。



2002年医師・歯科医師・薬剤師調査から

日本の医学部卒業生が最小 OECD調査

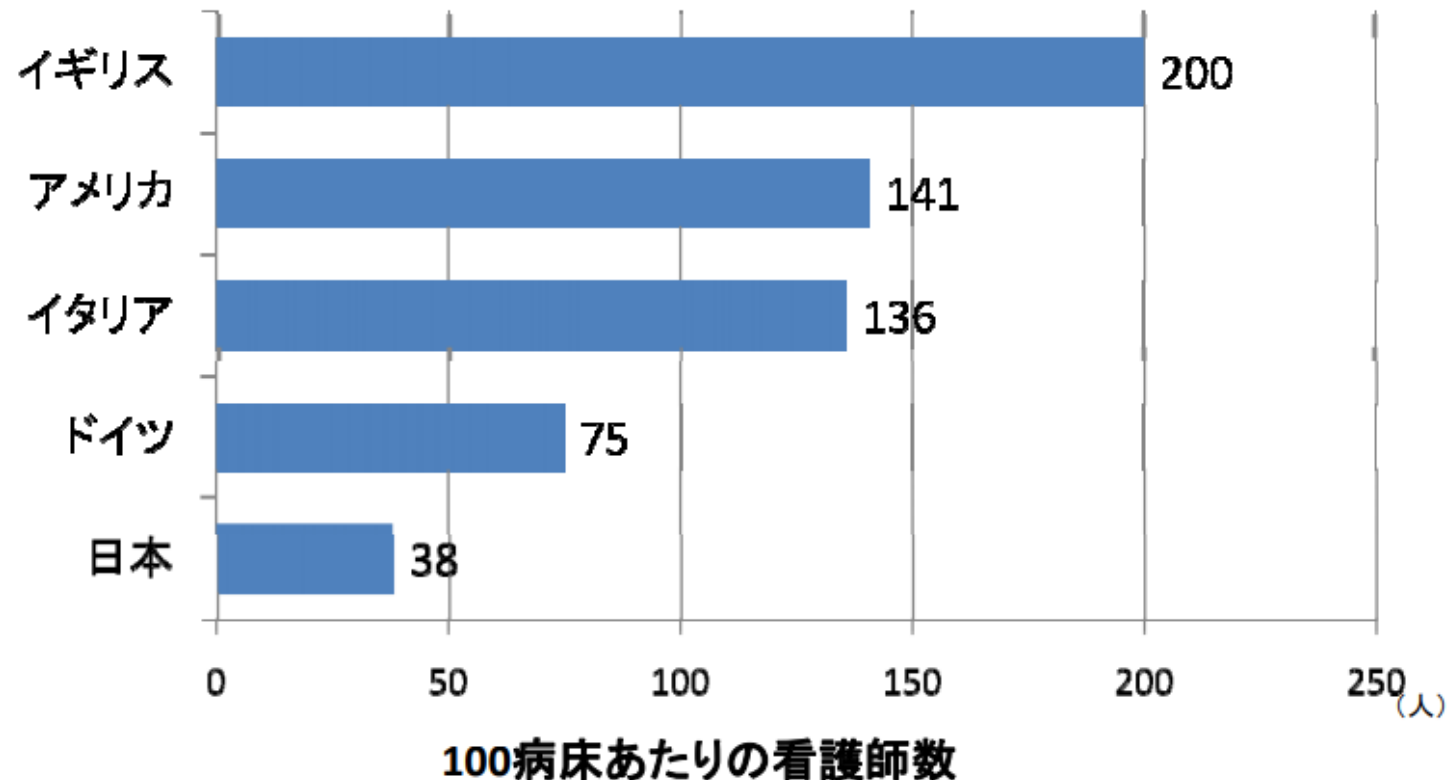
【日本経済新聞 2019年11月18日記事より抜粋】

- OECDが医療に関する2019年版の報告書を発表、
 - 日本は10万人当たりの医学部卒業生数が比較可能な35カ国のうちで最も少ない6.8人だった。
 - ちなみに、最多だった国はアイルランドで24.9人だった。
と報じられた。
-
- 医師不足問題は、深刻さを増している。

看護師は、諸外国平均の1/4

- 100病床あたりの看護師数は、イギリスの200人に対し、日本はわずか38人
- 諸外国の平均と比較すると1/4と圧倒的に不足している。

100病床あたりの看護師数諸外国平均の1/4

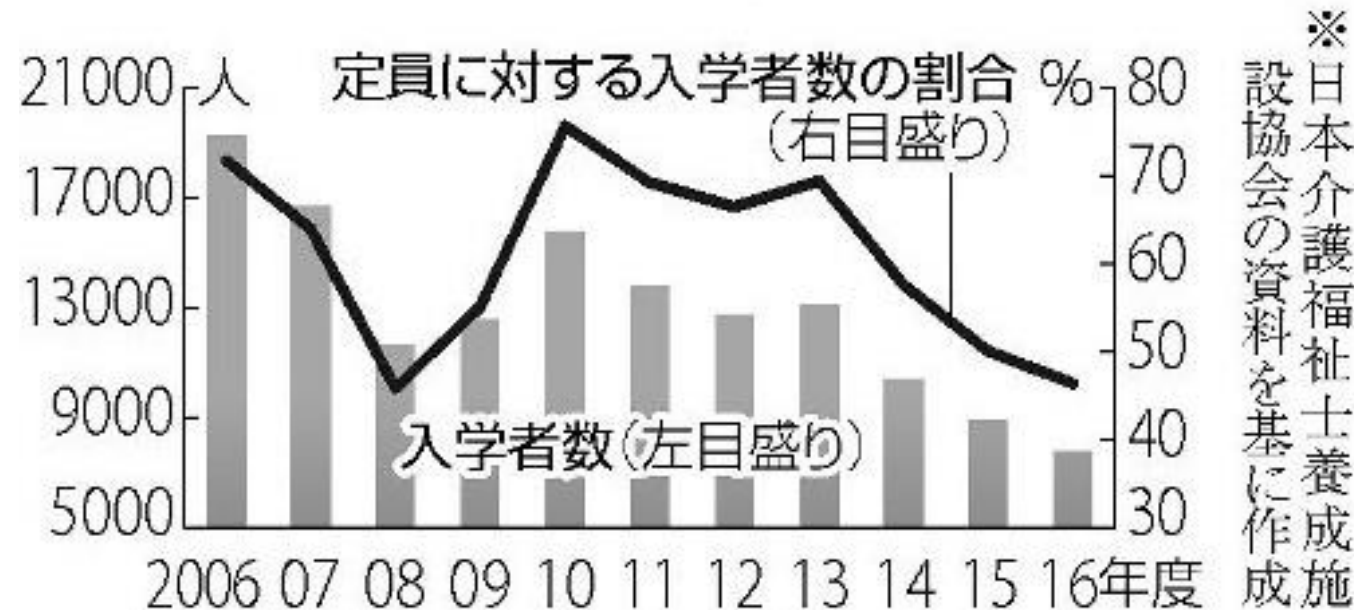


引用：厚労省 コメディカル不足についてより

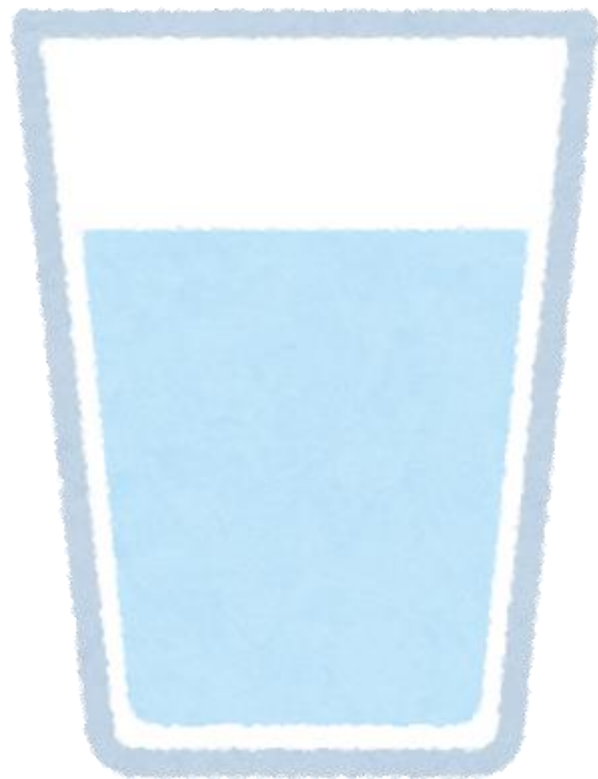
介護養成（生徒）数は、7,000人余り

- 介護職養成（生徒）数は、7,000人余り。介護福祉士等の介護職の養成校は減少し続けている。うち5%は海外留学者。
（医学部入学者数は、9,000人余り。）
- 深刻な定員割れ（50%以下）
- 介護職の処遇改善は急務

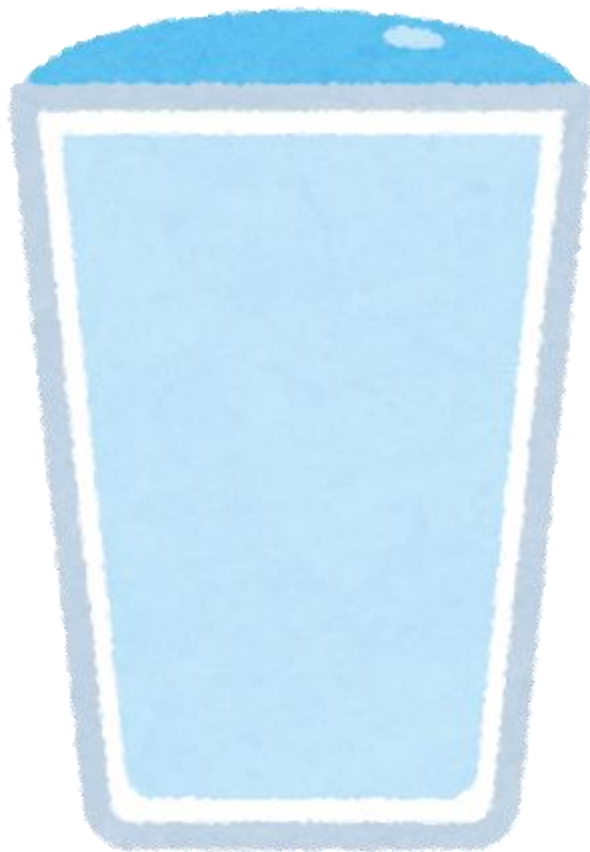
◆介護福祉士養成校の定員割れと入学者数の推移



平時

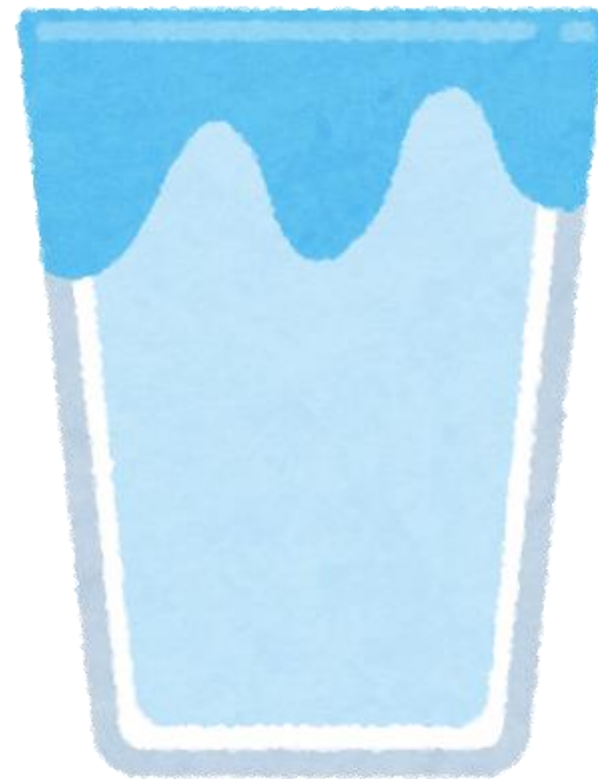


諸外国の医療



日本の医療

コロナ禍



世界中で医療崩壊

コロナ禍で今、現場で起きていること・・・。

- 救急受入れを断らざるを得ない。「断らない救急」を実践していることへの誇りを保てず、泣きながら対応しているER職員の姿がある。
- ワクチン接種が全職員終了している病院（民医連外）で、クラスターが発生。ワクチン接種後も、接種前と変わらず感染対策の順守を再確認。
- コロナ罹患後のRDS（呼吸窮迫症候群）で呼吸器から離脱できない患者を一般病棟で看護。24時間寄り添う看護実践は7対1では厳しく、看護師の疲弊に。

コロナ禍で今、現場で起きていること・・・。

- ワクチン接種実施について、自治体から住民へのお知らせに伴い、全国の病院、診療所等の医療機関では、住民からの電話、外来窓口対応に追われ、パニック状態。
- 長期化するコロナ禍、第4派の感染者の急増により、退職意向者も出始めている。
- 看護師自身の日常の感染対策を家族にも協力を求めることから互いにストレス高まり家族不和に
- 一方で、コロナ重症センターでは高額な給与などの矛盾も噴出。

コロナ禍収束に全力を！医療・介護従事者の充足こそ急務

- 第5波ともいわれるコロナ感染拡大のなか、医療をさらに困難に陥れるオリンピックは直ちに中止を！！
- コロナ禍の教訓は、日本の医療・介護体制を含め、社会保障の脆弱性を明らかにした。
- 今こそ、医療・介護従事者の充足に、舵を切るべき時！！